



災害にも強い地域づくり ～能登半島地震等の経験から学ぶ～



2025/1/18 日野ボランティア・ネットワーク 山下弘彦 hinovnet@sea.chukai.ne.jp
ひの防災福祉コミュニティセンター／鳥取県西部地震展示交流センター

鳥取県西部地震と日野町

鳥取県日野郡 日野町

鳥取県西部地震：日野町

*2000年10月6日

13:30発生

*M7.3、最大震度6強

*死者・行方不明者なし、
負傷者14人

*1,515戸全世帯、
全壊・半壊・一部損壊

*最大時930人避難所へ



被災当時(2000年)

人口：約4,500人

高齢化率：約35%

現在(2025年)

人口：2,600人強

高齢化率：約50%



2000年10月6日、13時30分

「鳥取県西部地震」発生

マグニチュード7.3

日野町は震度6強

日野ボランティア・ネットワーク(2001年4月～)

鳥取県西部地震(2000)を契機に、町内外ボランティアで結成
「鳥取県西部地震展示交流センター」(2006.10～県委託)→
「ひの防災福祉コミュニティセンター」(2021.04～町委託)運営

●日野町内を拠点とした活動

災害復興活動→被災後の地域づくり活動
子ども～高齢者の地域交流活動(見守り)
居場所づくり活動、若者支援

●日野町内外で、西部地震・

その後の活動経験を生かす活動

被災した地域・住民支援活動(被災現場で)
支援活動や防減災の取り組み普及(平常時)
ボランティア(支援活動者)のつながりづくり

●地域活動、災害・防減災活動の取り組み支援(講座・講演・委員会など)

活動記録等:4冊の冊子



交流の場の運営



これまでの被災地支援活動

200410台風23号水害

200410新潟県中越地震

200010鳥取県西部地震

200601平成18年豪雪

200607平成18年7月豪雨

201610鳥取県中部地震

202308台風7号鳥取市

200607平成18年7月豪雨

201308山口県・島根県豪雨

201804島根県西部地震

201905吉賀町大規模火災

201207九州北部豪雨

201707九州北部豪雨

201908令和1年:佐賀

202307令和5年:佐賀

201604熊本・大分地震

202007令和2年7月豪雨

200607鹿児島北部豪雨

201208京都南部豪雨

200707中越沖地震

200703能登半島地震

202401能登半島地震

202409奥能登豪雨

200407福井豪雨

202208令和4年8月豪雨

200307宮城県北部地震

200806岩手・宮城内陸地震

201103東日本大震災

201509関東・東北豪雨水害

201910台風19号

200908台風9号災害:美作

201807平成30年7月豪雨

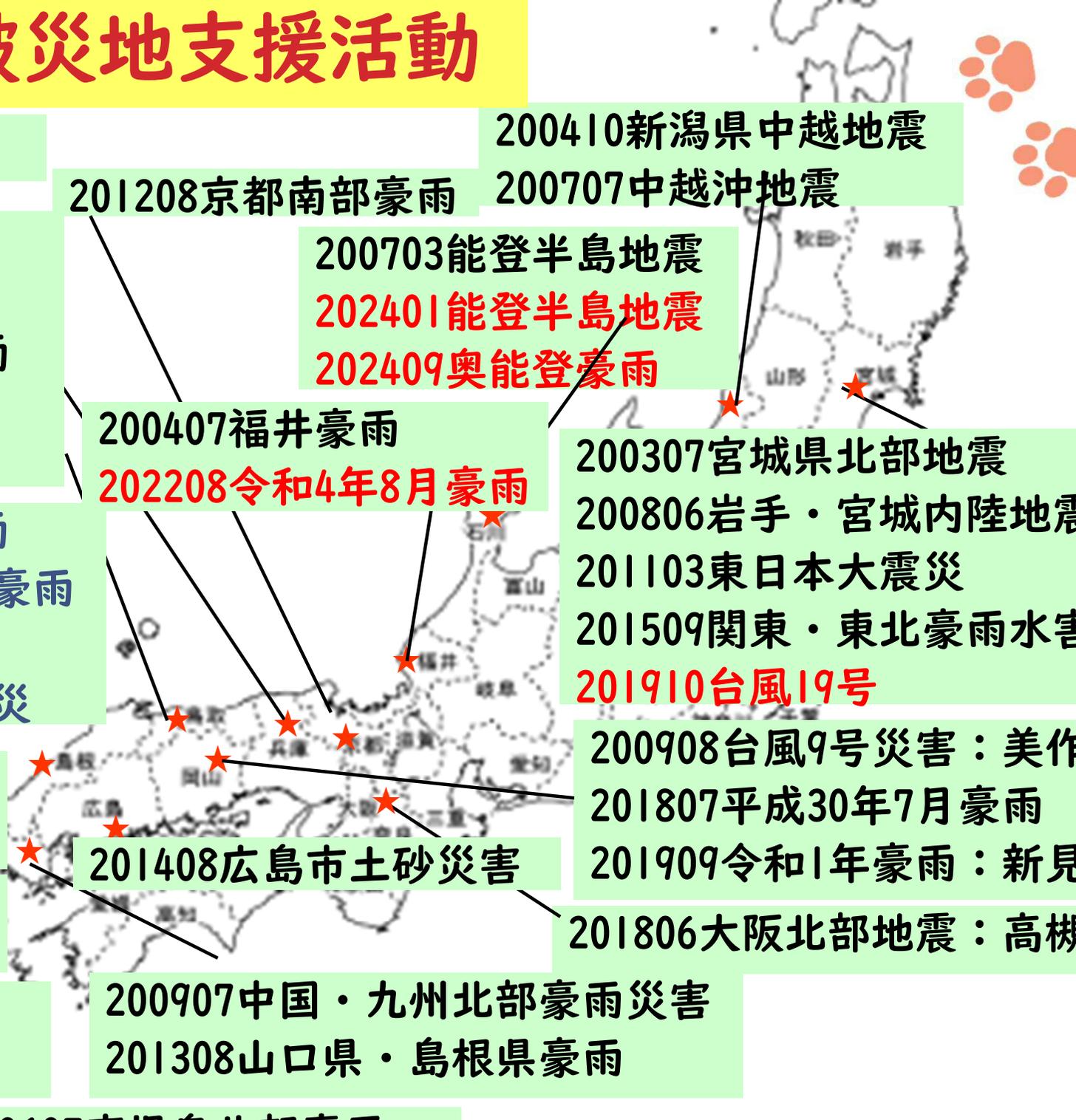
201909令和1年豪雨:新見

201806大阪北部地震:高槻

201408広島市土砂災害

200907中国・九州北部豪雨災害

201308山口県・島根県豪雨



今日のテーマ

「災害にも強い地域づくり」

●災害ごとに「顔」がある

●災害時の支援は、被災した住民支援・地域支援

→多様な人の暮らしの全体を長期的に支える（救う・守る・支える：ひっくるめて支え合う）

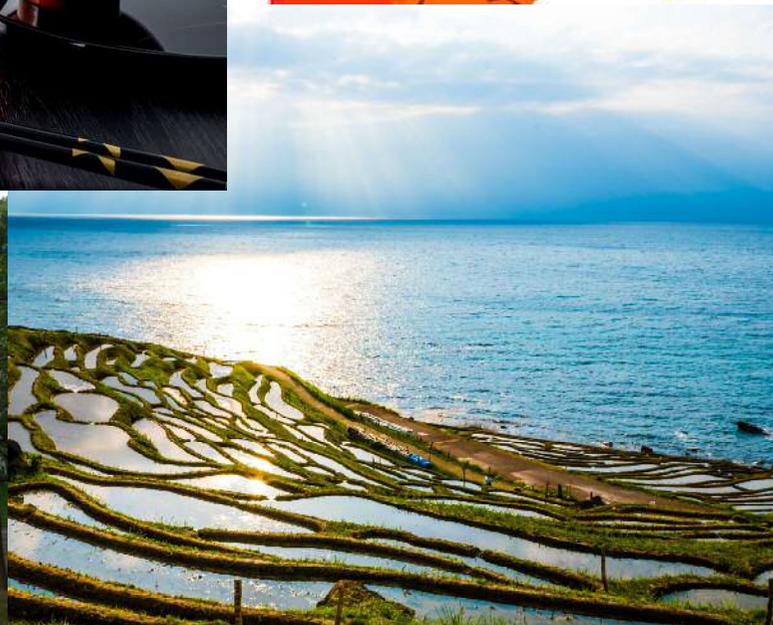
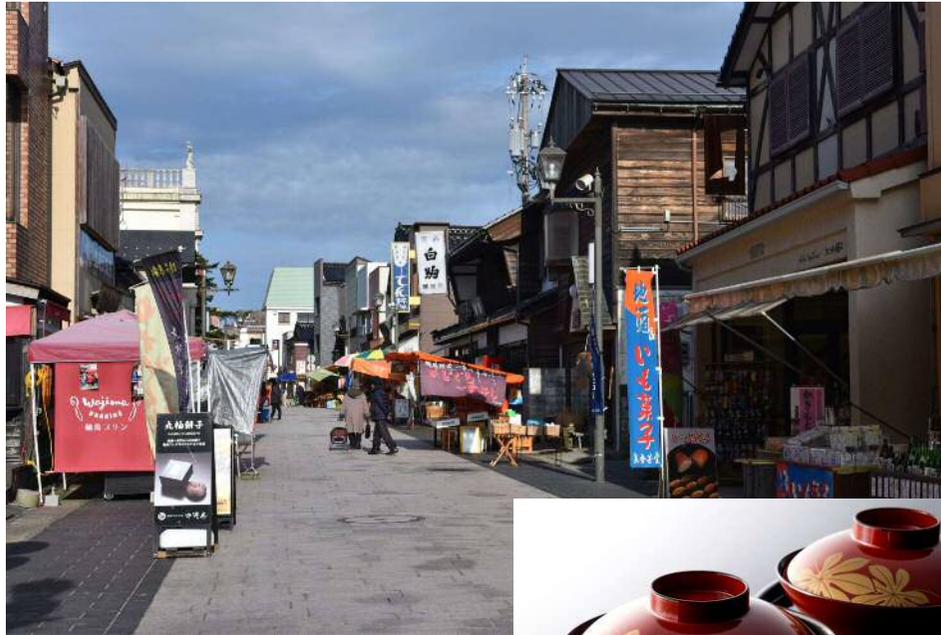
→「元の暮らし」「元の暮らしのリズム」、「地域の支え合いの力（福祉力）」を取り戻す：支えるために＝協働・連携の必要性

●日常の延長にある災害～被災後の生活再建も見据えて：「災害にも強い地域づくり」

→平時の取り組み、関係づくりの重要性

年内の見守り・相談支援活動の振り返り

～能登半島地震・奥能登豪雨の被災と支援～



能登半島地震の主な震源

1日
午後4時10分ごろ
震度7 (M7.6)

石川



震源		
⊗	⊗	⊗
震度5弱	震度5強	震度7

震度7発生時の震度分布				
■	■	■	■	■
震度5弱	震度5強	震度6弱	震度6強	震度7

(気象庁による)

輪島市の種々の被害と生活への影響

- 震度7:多くの死者等、家屋倒壊・損壊、土砂災害
- 輪島朝市近辺の大規模火災
- 幹線道路「のと里山海道」市内各所道路の損壊:倒壊家屋による通行危険
- 海岸が盛り上がり水位が下がる「海岸隆起」
- 集落の孤立、当初通信の途絶
- 停電、そして現在も続く上下水道未復旧
- 避難所・車中泊・在宅避難・広域避難…
- 中学生だけの白山市への避難…「ミステリーツアー」とも

行政・社協等諸機関職員、区長・民生委員…

誰もが被災者…「大丈夫です、生きています」

そんな状況のまま出勤している社協職員

●自宅は倒壊、集落が孤立…居どころは：社協事務所・避難所・車中・倉庫・知り合い宅に間借り、若干自宅

○命からがら逃げのび、燃え上がる市内を見た

○私たちはここにいていいの？

○孤立集落からやっと出てこられた（1/12頃）

○「魚食べるの、いつぶりかな？」鯖缶を手にして

○子ども、老親を考えると、どうしたらいいか…

○家が建っていて灯りがつき近所に悪い

【当初、市外ボランティアの受け入れも困難】

- 倒壊危険家屋が多いうえ余震も多く活動上のリスクが高い
 - 上下水道が未復旧でトイレや宿泊等拠点施設の整備が困難など環境が整っていない、また甚大な被害で広い駐車場などの確保も困難
 - 日帰りをするにしても交通事情が悪く渋滞の一因となりまた移動時間がかかるため現地活動時間が長くとれない
- 現状、二次避難等で地元にはいない被災住民が多い
(状況は刻々と変化する)
- ◆当初から外部の力を借りにくい＝困難な中であっても地域における助け合いが重要

輪島市社協として、特にどこに目を向ける？

●避難所の過酷な状況

→食事・物資など十分でない避難所もあるとの情報も

→ある程度状況把握されており、最低限の目は配られている（支援のばらつき・仕組みには課題）

→輪島市役所職員の困難も聞こえるが、行政間支援に望みを託したい（社協職員は限られる）

※一方、医療視点が強く、住民の自立への配慮が必要と思われる場面も。

●在宅生活者、車中泊生活者等は困難な状況にあるケースがあるのではないか？

→ほとんど目が届かない、物資・情報がない

→何らかの事情で、避難所・広域避難をしていない、等

被災した住民・地域を支えるため、 オール輪島市社協職員の地域担当制による訪問活動



課を越えて、全職員が役割分担して地域を担当する

◆在宅・車中泊を中心に状況把握

- ・広く生活支援ニーズ、ボランティアニーズの把握
- ・「気がかりな方」の状況把握
- ・集落・避難所等地域状況の把握

◆把握した状況を踏まえ、関わり・支援の必要性・方法の検討

👁️👁️ここがポイント



技術系NPOの献身～甚大な被害の中にあって～

●公共の力で進まない、道の啓開

●家の戸が閉まらない…

●倒壊した家屋、せめて大事なものを取り出したい

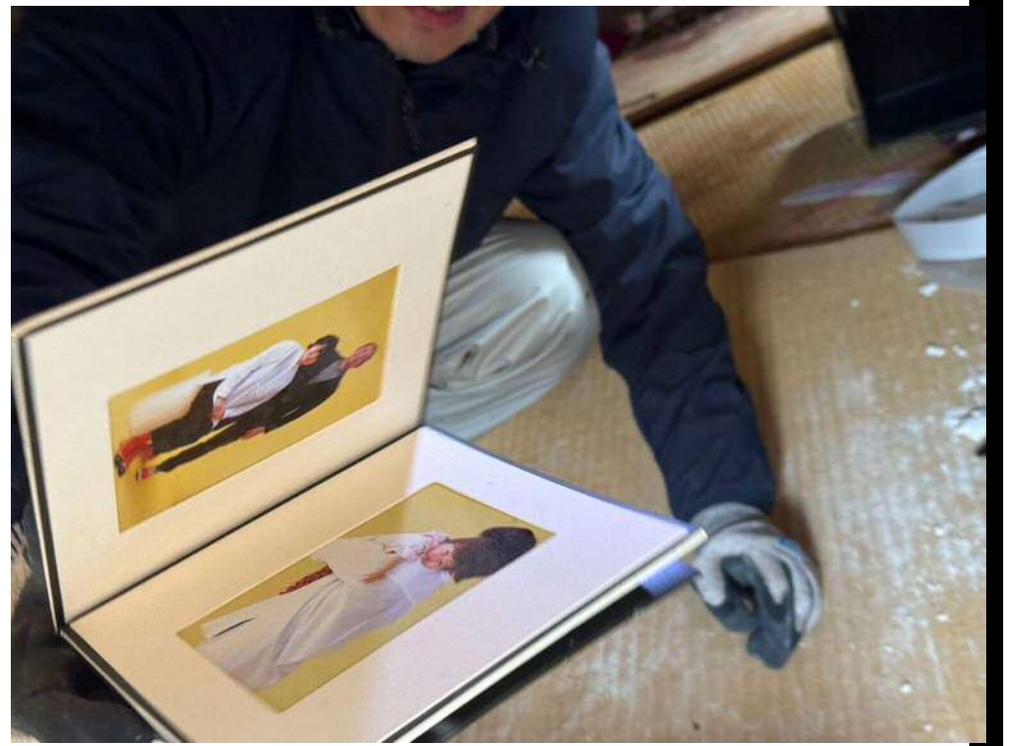
-PC、スマホ、通帳、印鑑、車両…

-商売の品の輪島塗…(気がかりで避難できない)

-ご位牌、地震で犠牲になった家族の思い出の品…

「すべて失った気がしたが、救われた」

●曰く「昨日のじいちゃんが気になったから、今朝も寄ってきた」…単なる技術系ではない



住民・地域の力～甚大な被害の中にあって～

●被災しながら、社協に出入りし、情報を持ってきたり、孤立地域に物資を届けたり、訪問活動に同行する輪島市民

●自宅は全壊。どうせやることなく避難所にいるのだからと、曰く「ひとり災害ボラセン」（「自称災害対策本部」）：輪島中学校避難所の運営

●広域避難をせずに自宅にいる高齢者等を訪ねて回っている

●今年も輪島高校卒業生に贈る「防災ポーチ」を卒業式に渡したい！協力して！

●被災して、地域みんなで炊き出しをするなど協力して在宅避難生活。被災以前より地域のつながりが強くなった。

○避難所にいてもすることがない、何かできることがあった方がいいのではないか。

「輪島市災害たすけあいセンター」の意味

◇2月10日から災害ボランティアセンターを「輪島市災害たすけあいセンター」として運営します。

今回の災害では、生活面で様々な困難を抱える方がおられ、個別に困りごとの相談にのって支援につなげるほか、地域によるたすけあい、諸組織が連携した支援、市内外のボランティア・NPOによる支援など、市内外総じてたすけあい活動の推進が重要となっています。

このため、生活面や住宅復旧など暮らしの全体を支えていけるよう、2月10日から災害ボランティアセンターを「輪島市災害たすけあいセンター」（輪島市社会福祉協議会内）として運営します。

※この先、災害ボランティアセンターと地域支え合いセンターの機能を総称して「災害たすけあいセンター」としていく想定

被災下での地域福祉活動～輪島市の支援を通じて～

*** 災害時の困難な状況にあっても、**

◆避難所、在宅避難生活（地域生活）…において、一人ひとりが
できることをする（「お客さん」にならない）

◆助け合い・支え合いが少しでも機能するためには？（日ごろの
地域での支え合い）

*** 災害ボランティアセンターは手段の1つ、災害時に住民が抱える
課題は「（作業）ボランティアニーズ」だけではない**

◆状況把握-課題があれば伝える・共有する・働きかける・声を
かける・見守る…など、災害時のボランティア活動は重要

*** 地域交流、外に開く・外部の力を借りる、多様な力を活かす協働
・連携**

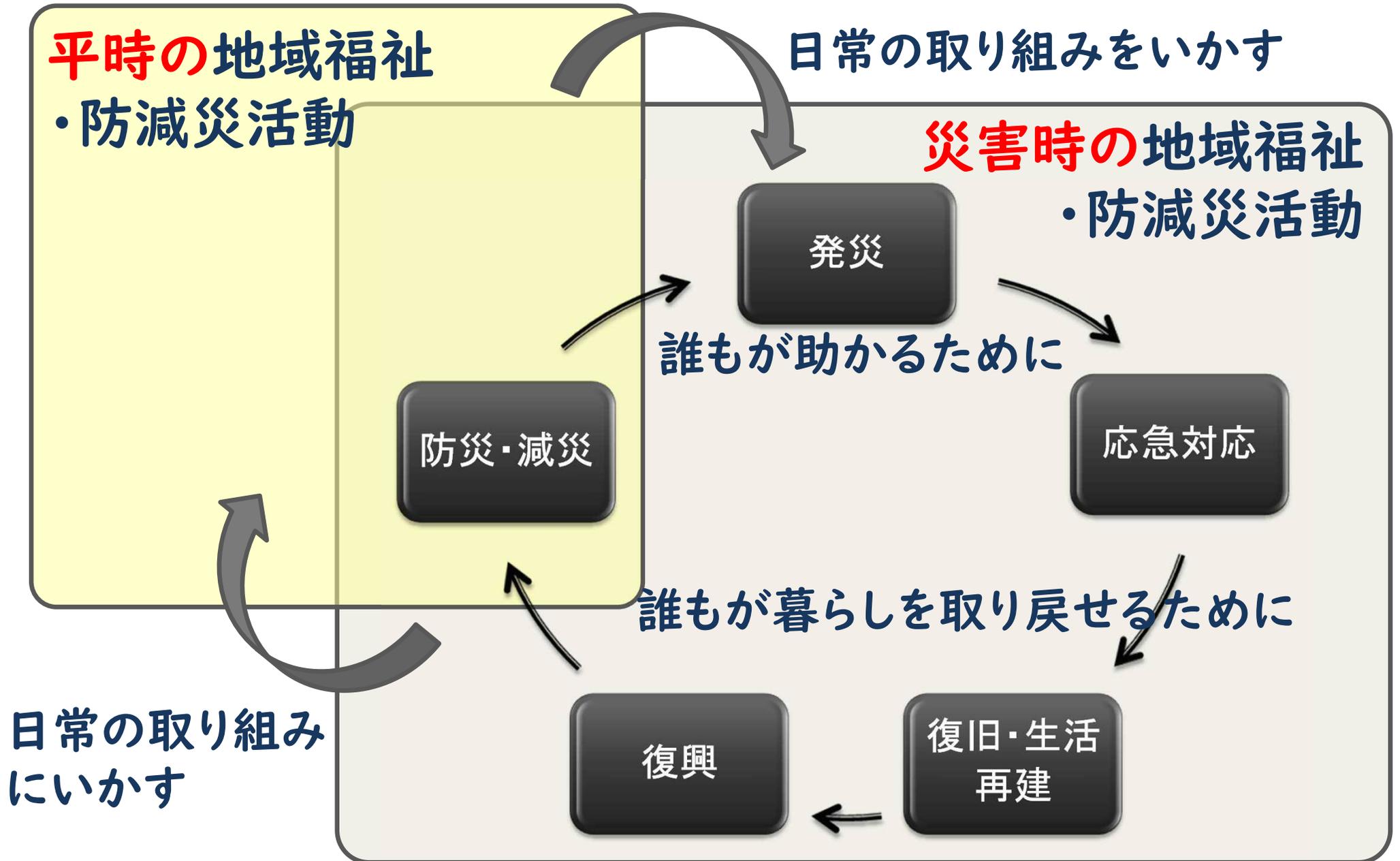
*** 「ふだんのくらしのしあわせ」「誰一人取り残さない」「支える-支
えられる固定的な関係性を超えて支え合う地域づくり」「生活困窮
者の支援」…などを被災下でいかに少しでもできるか。**

地震災害から、まだまだ復旧・復興の途上での豪雨災害



災害（減災）サイクル

～災害に視点を据えた地域福祉・防災活動のサイクル～



災害が起こっても、
誰もが助かるために…

岡山県で戦後最大の災害「平成30年7月豪雨」



○被害状況(平成31年4月25日現在 / 岡山県危機管理課)

死亡者 73名(うち災害関連死12名) 行方不明 3名

全壊 4,830棟 半壊 3,364棟 一部損壊 1,126棟

床上浸水1,540棟 床下浸水5,482棟

平成30年7月豪雨：倉敷市真備地区住民の経験

●夜中に避難指示、お嫁さんに「軽トラ1台で逃げよう」と言われ、孫と一緒に避難。目の前と隣の住宅は流された。夫は「2階にいれば大丈夫」と言って避難しなかったが、後で警察官が来て「危ないから逃げろ」と言われ、ようやく避難してきた。

●川の東側は警察が一軒一軒家をまわって声をかけたのでみんな避難したが、川の西側は橋が流されて渡る事ができなかったため、平屋住宅で避難しなかった方が亡くなっていた。

●安否確認のために地区内の要援護者にTELを入れ、避難を促した。ある住民は、早めに自分の車に地区内の要支援者を乗せて、避難所に運んだ。「まだ早いと思ったけど、連れて行ってくれるけん」とある高齢者。

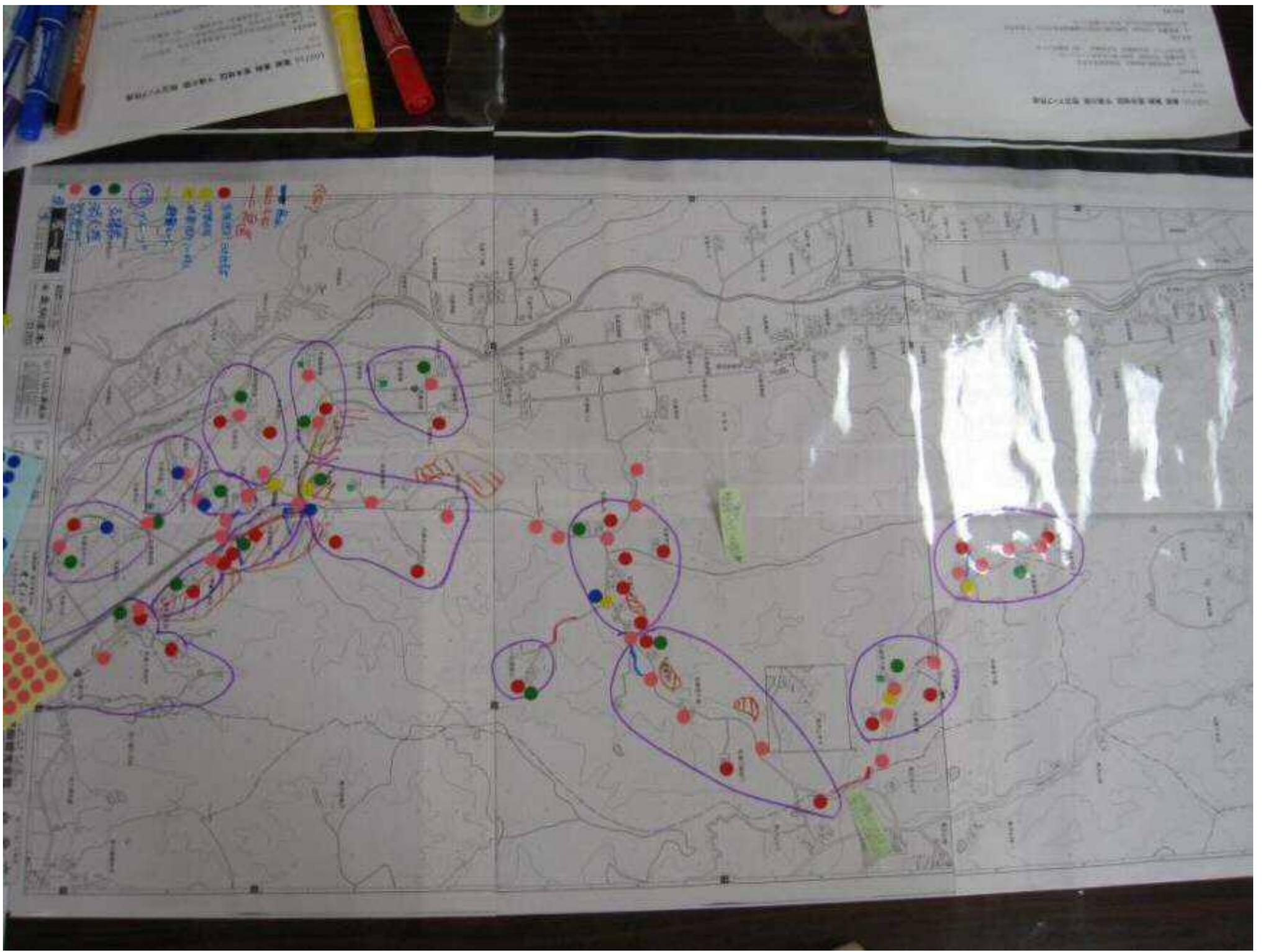
避難行動において、「声をかける」ことの重要性
…「声をかけられるの待ち」ばかりでもいけないが…

『逃げない住民』 防災意識の低い住民』

寄り添うことで初めて気づいたこと

「苦勞して夫婦で建てた家だけが流されて自分は助かっても、その後の人生を考えたらとてもつらい。だから家が流されるなら自分も一緒に流される」

本人の気持ちを理解した上で
「逃げる」ことや「命の尊さ」を一緒に
考えていくことが重要



ある集落の「支え合いマップづくり」で 「支え合い」の本当の意味

支え合いマップ取り組みの朝。
「もし災害が起きたら、自分はもういい歳
だし死んでもいい。迷惑をかけたくないから
放っておいてもらっていい」と言った高齢者。

その四時間後に起きた変化。

誰かに気にかけてられていること。
誰かを気にかけていること。
日頃のこうした実感が、助かろう・助けよう、
立ち直ろうとする、大きな力に。



この先にあなたの家があったとしたら…

もしも災害が起こって、すぐに外部からの救助・支援を求められないとしたら。近隣の方をどう助け、近隣の方にどう助けてもらえるか？



例えば、孫やおばあちゃんをひとり家に残してきたとき、助けてくれるのは？

町なかでも、家屋や塀の倒壊、火災などによって、いつもは安全な道がふさがったり、通れなくなったり。

被災しても、
暮らしを取り戻すために…

近隣で、地域全体で、
どのように支え合えるか？

→そのために日ごろは？
(被災時の状況から日頃の取り組みを考える)

避難所・仮設住宅～在宅者も含めた支援



避難生活も暮らし
:暮らしの視点で環境
整備、避難生活後の
暮らしを視野に

様々な形で、何とか
すごせる地方の暮らし、
支援が必要な被災者に
いかに目を向けるか



○「生活支援」は、災害発生当初から必要になる（災害による困難さは、規模で比較できない）

例えば、壊滅的な打撃を受けた裏の家に、家屋被害は軽微だが、断水により困っている足が悪い一人暮らしの高齢者が暮らす等 → 「泥を見ずに（だけでなく）人を見よ」

○災害によって何が困るか？予想しえない豪雪災害に見舞われた群馬県前橋市では…

- ・人工透析を受けに行けない
- ・食べ物が家がない（「スーパーが冷蔵庫」の生活）
- ・停電→暖がとれない
- ・訪問診療・看護・介護を受けられない
- ・人に頼りたくない人、つながりがない人、障がい者世帯などの課題の顕在化→「普段から困っている」気づき

災害時の「困りごと」とは？

暮らしの復興：住宅・心身の健康・生業・経済・・・

被災地・被災者

家が壊れる 道が通行止 水が出ない
家財を失う ストレス 体調悪化
避難生活 店が閉まる サービス停止

恐怖、混乱、不安、
絶望、苛立ち、悲嘆、
諦め・・・
生活課題の発生・悪化

被災

地域・地域住民

高齢者

障がい者

子ども

妊産婦

足腰が痛い／手が震えて字が書けない／老々介護が大変／配偶者を亡くし寂しい／交通手段がなく買い物や通院が大変／男手がなく力仕事ができない／持病のため食事制限が厳しい／共働きで子どもだけ在宅の時間が長く不安／家のローンで家計が厳しい／一人暮らしで気分が落ち込む／日本語が読めない・・・

近所はみんな顔見知り・変わったことをすると「あの人は・・・」と言われる・「人様に迷惑はかけられない」・子どもが少ない・老人会が解散・付き合いが希薄になった・・・

被災者の支援ニーズ把握の困難さ

「受援力」「頼み上手」「助けられ上手」が重要、と表現されるほど、「声をあげる」ことの困難さ

- ◆「人さまに頼ってはいけない」「自分のことは自分で」
- ◆人に見られたくない、何を頼んでいいかわからない
- ◆自分が困っている状況を客観視・発信できない
- ◆どこに助けを求めていいかわからない、
支援がなされていることを知らない
- ◆身の周りの目、そもそも・・・ など

※本質的には：支え・支えられ／関わり合いの実感がなければ、
頼みやすい状況にはならない

- ・誰かが聞いた「支援が必要な状況」が届かない
- ・被災者の「声」「課題」をニーズとして把握できるか？

「助けて」の声を聴くために

様々なアプローチ、タイミングで、多様な支援者が「声になりにくい声」を聴く工夫をしてきました。

◆訪問活動

◆サロン活動などの場

◆足湯・行茶

◆声を聴ける人を通じて



どんな場で、誰がどのように関われば、声が出せるか。人によって、抱える内容によっても異なる。

また、その声をどのようにとりあげるか？

【2013萩市水害】暮らしや地域の崩壊を招きかねない

●子や孫がよそに暮らし、一人で暮らす高齢女性、〇〇さん。●

床下の泥出しなどしてもらい、ボランティアや近所の方には本当に感謝している。ありがたい。

だけど、汚れた壁の掃除、2階にとりあえず上げてもらっていた物の整理。一人でぼちぼち片づけているうちに、暑さもあって疲れてきた。

これから家で暮らせるようにするために、業者に依頼したり家具を置いたり、やらないといけないことを考えただけで、頭が混乱して真っ白になる。あの日の雨は経験したことがない。本当に怖かった。

これまで、年を取ってご近所さんの世話になりながらも、住み慣れた家で暮らし続けたいと思っていたけど、疲れてしまった。

まだまだ大変な思いをしながら、人にもまた迷惑をかけてまで一人暮らしを続けるのがいいのか。隣の人も、「昔みたいにみんな若くないから、十分に助けてあげられない。情けない」と言う。そんな思いにさせるのがまた申し訳ない。

子ども家族はずっと前から、一緒に暮らさないかと言ってくれている。これまでは、今さらよそに行って暮らすのは…と思っていたけど、これ以上わがままは言えないかもしれない。

高齢者の「聞き取りニーズ調査」から

鳥取県西部地震から4~5か月後、「人さまに迷惑をかけてはいけない」「自分のことは自分でしないとはいけない」、一方…

1) 物理的・精神的に未だ続く地震の影響

「2階は地震の時のまま」「修理は春になってから」
「ずっと笑顔が出ん」「歳だけえ、どうなってもいい」

2) 住民にとって配偶者の死去、健康など様々な課題と絡み合う被災の課題

「夫の咳払いが聞こえなくなって寂しい」

3) 地震前から解決しないままの生活課題、気兼ねなく相談したり頼んだりできない暮らしのこと…

「粗大ゴミが出せない」「相談相手がない」

高齢化が進んだ町に、被災で大きなダメージ

「地域コミュニティ」も綻びを見せているのではないか

高齢者誕生日プレゼント企画(2002年4月～)

(鳥取県日野町で、「被災した中山間地の高齢者見守りとボランティア育成」)

- 高齢者だけで暮らす方(約350人)を、
- 対象者の誕生日に、
- 誕生日プレゼントを手づくりして訪問
 - お祝いし、喜んでもらう(元気付け・活性化)
 - 生活状況や困りごとを聞く(生活課題把握・つながり)
 - ボランティア活動や諸機関へのつながり(課題解決)
- プレゼント・誕生日カードづくりに諸団体等協力(協働)
- 町内外、園児～高齢者まで活動に参加(参画・交流)
- 2002年4月～、現在も継続中
- 資金は、赤い羽根の共同募金など





月ごとに、様々な団体がプレゼントづくりで連携



日野町を拠点とした様々な(ゆるやかな)連携

ひのぼらねっと／ゆるやかな連携

幼児～高齢者まで

町内

民生委員、看護師、ケアマネ、行政職員、社協理事・評議員、元学校教員、諸団体メンバー、…

町外・県外

他の被災地、縁があった社協・公民館等職員、高校生・大学生…「体験参加」「誰でも」

町内団体・個人

日赤奉仕団／食生活改善推進協議会／木のおもちゃづくりグループ／セルプひの／舟場地区あじさいの会／たんぽぽの会／菅福元気邑／大夢多夢／なかよしグループ／お花・ポーセラーツの先生／町人権センター 等

里山元気塾

I ターンの若者／地域おこし協力隊／学生人材バンク～bank up

町内の諸機関

社協／民生委員／包括支援センター・保健師・健康福祉課 など →見守り情報交換会

ほか

県共同募金会／県社会福祉協議会 など

「高齢者誕生日訪問」から「わすれんぼカフェ」 そしてチームオレンジへ

～認知症になっても大丈夫という地域にするために～



→これは、「個別避難計画」にもつながっていくのでは？

被災後、日野町を拠点とした活動で得てきたもの 「見守り・見守られ、支え・支えられ」の実感

- 高齢化が進み被災した地域の高齢者を見守り、困難な暮らしを支える、一方向の視点から始めたが…
- 「被災者」、訪問を受ける高齢者、不登校だった若者、障がい者施設の利用者…も地域の一員としてボランティア活動
 - 「何かできることで恩返ししたい」（家を再建した住民）
 - 「家にずっといるときは、家族がみんな先生みたいだった」（引きこもりだった若者）
 - 「ずっとボランティアをしたかった」（障がい者施設の通所者）
- 人生の先輩である訪問対象者からのまなざし
 - 「小さい時からえらいねえ。がんばってね」（小学生に）
 - 「あんたボランティアするようになったか」（施設通所者に）
 - 「年をとったら自分もこうありたい」（70代半ばの訪問者）

→ 支え、支えられる私たち

高齢化が進む地域、平日の日中に災害が起こったら…

いま、何が必要か？

○災害時の要配慮者の支援に課題

*自治会長など地域役員・民生委員…などだけで可能か？ →誰もが被災する、不在のことも…

*消防・自衛隊、行政などの助けを待てばいいか？

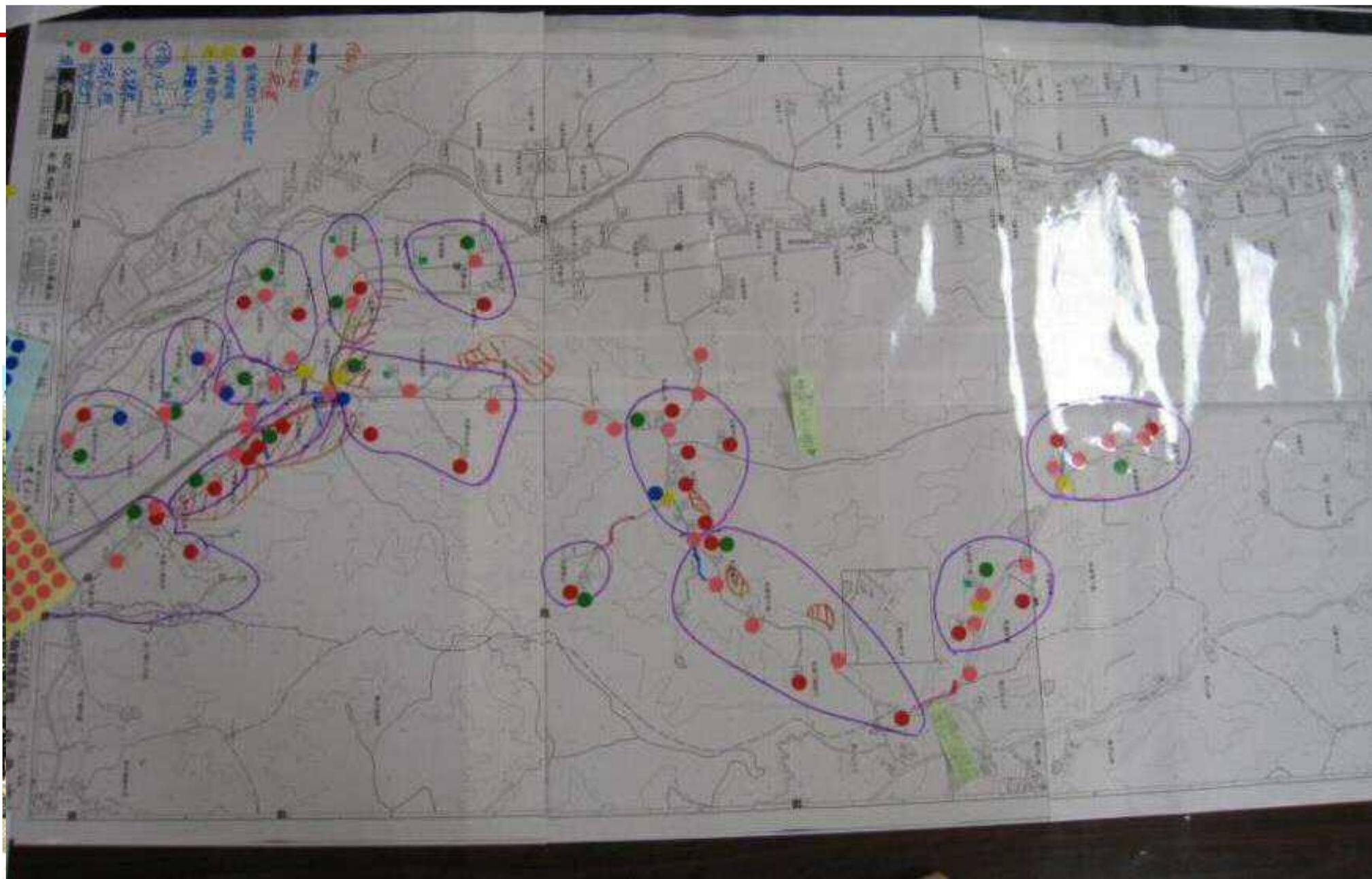
・地域で話し合う（対応を話し考える）ことが大切

・具体的な想定をして、実際に試すことが大切

→地域住民の一人ひとりができることを増やしていくことが必要

→地域により状況が異なる。地域状況に合わせ、自分たちで決め、自分たちが担い手となることが重要

地域で課題を共有、取り組みを話し合う 「支え愛の地域づくり」地図・訓練・見守り…



「支え愛マップ」(要援護者マップ・防災マップ) あるある

○5年前にくまなく調べて内容は完璧!印刷会社で立派なマップに仕上げ、各世帯すべて持っている!

→今も持っている?内容は今も正確?

○少数精鋭、地区役員で完全なものを作った!

→地区の皆さんは内容が頭に入っている?

○マップを確認する余裕がない。マップの内容は…?

○最新のマップが手元に!さて、どう動けばいい?

○早期避難の方がいい?被害が出るかわからないくらいだし夜だし。最近会っていないから声をかけにくい。

【「支え愛マップ」を利用した防災まちづくり会議】

地域の状況を知る・共有する

- *なるべく多様な住民参加で話し合う
- *防災上のリスクや人・地域の状況：課題や希望
- ◆方法：まちあるき、話し合いながら地図へ落とし込み

課題解決のための検討・「やってみる」

- *具体想定を設定して検討
- *例えば福祉サロンなどの取り組みで防災力を高める
- ◆方法：地区防災訓練・避難訓練（試す）、見守り活動

見直し・検討→この経過で繋がるのが防災

- *取り組みの振り返りと次の手立て検討
- *マップの見直しなど状況変化を落とし込む
- *「避難所」のなじみやすさ＝環境整備、お泊りキャンプ
- *「防災と言わない防災」、「助かることが助けること」の意識

地区の応援団の活用… 行政や社協への依頼

日ごろの地域防災・地域福祉活動、ケア活動

*地域防災活動、見守り活動、要配慮者避難支援計画
福祉サロン活動、地域包括ケア・多職種連携…

「救う・助ける」

*安否確認・避難誘導・避難支援・声かけ、救助・救助
を呼ぶ、初期消火などの応急対応…

「守る」

*在宅・避難所に目の届く相談援助の状況・体制づくり、
炊き出しなど配慮ある相互支援活動、専門職の連携し
た支援、地域外に支えを求める、

「支える」

*在宅・避難所に目の届く訪問活動など、相談援助、
訪問活動、課題解決の取り組み、見守り…

災害時にも平時にも地域で「支え合う」
お互いに、支え・支えられる実感が重要

身近に起こっている災害、そして…



「一人の被災者に向ける目」

「地域で手に負えない」…外部の助けを借りられるか



減災

の考え方で進める地域づくり

大切なのは、「どうありたいか？」
…どう暮らしていきたいか、ということ
改めて地域を見直し、
支え合い、つながりを広めて強める
取り組み、地域づくりが大きな力に